岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

地域史料通信　第７号

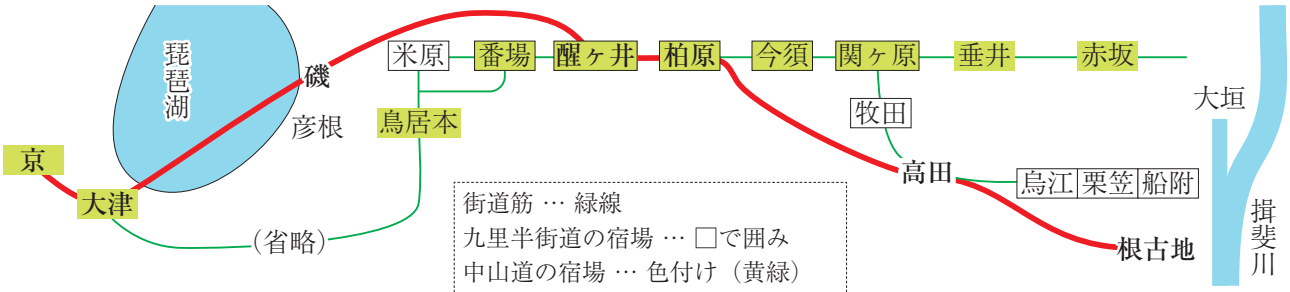
２０１５．１０

（省略）　（中略）

（岐阜大学教育学部郷土博物館所蔵　美濃国池田郡八幡村竹中家文書ち 214 の一部抜粋、以下、特に所蔵を明記していない史料は、教育学部郷土博物館所蔵のもので、教育学部郷土博物館は「博物館」と記載します）

この古文書（こもんじょ）は、天保（てんぽう）７年（1836）に作成された書類の一部分です。はじめに「一（ひとつ）、尾州御国産（びしゅうおんこくさん）鰻（うなぎ）并生物類荷物（ならびになまものるい）、京都江従来差送り来候処（きたりそうろうところ）」とあり、尾張国産の鰻（うなぎ）・生物類（魚鳥貝）が京都へ運ばれていたことが見てとれます。鰻の輸送は、通常のルート（各宿場経由、下記図の緑線など）とは異なるルートが使われていました（下記図の太赤線）。なぜでしょうか？

※資料において鰻は「鱣」という記載例もありますが、現在ではあまり使われていない字であるため、ここでの表記は同義の「鰻」に統一しています。



詳細は４ページから

目　次

歴史資料の再整理　―10 年目を迎えて―……2
鰻が京へ運ばれた　―美濃・尾張国の鰻の流通・輸送の一端―　……4
交流コラム／地域資料・情報センターの活動／編集後記……8

歴史資料の再整理　―10年目を迎えて―

岐阜大学地域科学部地域資料・情報センターでは、2005年度から教育学部郷土博物館の歴史資料の再整理と新目録の作成作業を開始し、今年で10年目を迎えました。博物館は17件の文書群（資料点数4万点以上）を収蔵しています。1967年から1968年にかけて刊行された『岐阜大学教育学部庶民史料目録』（『前目録』と表記）から概要を知ることができます**（右頁上段表）**。まず『前目録』では、江戸時代の資料は内容により幾つかの項目にわけられ、その項目ごとに年代順に整理されました。明治時代の資料は江戸時代の資料とは別に、年代順に整理されました（古田家文書を除く）。資料には、それぞれ整理番号が付され、年代と簡易な表題を記した『前目録』が作成されましたが、書状などは未整理のまま残されていました。資料の保管には、段ボール製やブリキ製の文書箱が使われていました。以上は、近年の歴史学・記録史料学の進展を踏まえれば不備も多く、今回の再整理と新目録の作成となりました。新目録作成にあたり、目録内容の詳細化に努め、かつ未整理資料も目録に加えました。資料の保存措置として、中性紙製封筒・文書箱への入れ替え作業も行っています。

2015年3月末日までに目録は8冊**（右頁中段表）**、資料の内容をわかりやすく紹介した『地域史料通信』は6号まで刊行することが出来ました。現在までに再整理・目録化できたものは約1万点超で、ようやく全体の1/4を超えた程度です。新目録は、県内・近県の図書館や博物館、全国の大学の日本史研究室などに送付しています。また、岐阜大学機関リポジトリや、地域資料・情報センターのHPからも閲覧が可能です。こうした活動により、近年は資料活用の機会も増えています**（右頁下段表）**。岐阜県主催の古文書読解講習会のテキストとしても使用されています。最近は、個人の方からの資料に関する問い合わせなども増えつつあります。

2013年・2014年度には、新たな資料を収蔵しました。2013年に収蔵したのは、美濃国本巣郡高屋村文書（本巣郡北方町）で、段ボール箱で8箱あります。2014年度は、美濃国武儀郡上麻生村文書（加茂郡七宗町）を収蔵しました。段ボール箱で5箱あります。これら文書群に関しては、全くの未整理状態ですので、これから整理計画を立てていきたいと思います**（下記写真）**。新資料の受け入れは、経費や対応できる人員の不足などを考慮すると厳しい面があるのは事実です。岐阜県内の古文書散逸を防ぐため、各自治体などと連携し適切なところに収蔵されるよう配慮したいと思います。

本年度は、『美濃国池田郡八幡村竹中家文書目録（その2）』を刊行する予定です。これからも、岐阜県域に関わる資料の整理を進め、多くの方々に活用していただけるよう努めていきます。

美濃国本巣郡高屋村文書の一部

美濃国武儀郡上麻生村文書の一部

前目録収録資料（『岐阜大学教育学部庶民史料目録』、2015.9.30 日現在再整理前）							
目録巻数	文書名	村　名	現在地（旧町名）	内容	主な年代	数量	備　　考
(1)	古田家文書	大野郡高屋村	本巣市（糸貫町）	庄屋文書	18～19c（明治期含む）	14,174 点	未整理分約 5,000 点
(2)	青木家文書	厚見郡日置江村	岐阜市	庄屋文書	18～19c（明治期含む）	2,383 点	未整理分約 3,400 点
	汲田家文書	席田郡三橋村	本巣市（糸貫町）	庄屋文書	19c（明治期含む）	525 点	未整理分約 420 点
	後藤家文書	大野郡野村	大野町	庄屋文書	19c（明治期含む）	1,743 点	未整理分約 400 点
	脛永村文書	池田郡脛永村	揖斐川町	庄屋文書	18～19c	296 点	
	岡村文書	池田郡岡村	揖斐川町	庄屋文書	17～19c	399 点	
(3)	丹羽家文書	山県郡高富村	山県市（高富町）	庄屋文書	18～19c（明治期含む）	2,228 点	未整理分約 1,350 点
	竹中家文書	不破郡岩手村	垂井町	旗本文書	17～19c	43 点	
	津田家文書	安八郡白鳥村	池田町	旗本文書	19c	17 点	

新目録収録資料（『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録』、2015.9.30 日現在再整理済・継続中）							
目録巻数	文書名	村　名	現在地（旧町名）	内　容	主な年代	数量	備　　考
(1)	村木家文書	方県郡河渡村	岐阜市	庄屋文書	19c（明治期含む）	1,522 点	
(2)	山田家文書	方県郡木田村	岐阜市	庄屋文書	18～19c	1,227 点	
(3)	山田家文書	武儀郡下有知村	関市	庄屋文書	18～19c	1,784 点	旗本川辺大嶋家家臣立木家関係文書含む
(4)	未報告諸資料・博物館関係資料	内容：土岐郡山田村・駄知村文書／安八郡馬目村伊藤家文書／郡上郡小野村野々田家文書／岐阜県庁文書／岐阜県師範学校関係資料／岐阜県東濃地域関係資料など			18～20c（明治・大正・昭和含む）	2,323 件	『前目録』に収録が無かった資料
(5)	大橋家文書	安八郡浅草東村	大垣市	庄屋文書	19c（明治期含む）	777 点	美濃国安八郡南寺内村文書・美濃国多芸郡大場村文書含む
	乙坂村文書	多芸郡乙坂村	大垣市（上石津町）	庄屋文書	17～18c	226 点	
(6)	長屋家文書	本巣郡長屋村	本巣市（糸貫町）	庄屋文書	19c（明治期含む）	1,723 点	
(7)	竹中家文書（その1）	池田郡八幡村	池田町	庄屋文書	18～19c（明治期含む）	848 点	現在目録作成中、全体では 5,400 点以上あり
別冊(1)	村絵図		岐阜県内	笠松陣屋・高山陣屋文書など	19c	183 点	
新目録は右記 URL にて公開　　岐阜大学機関リポジトリ：https://repository.lib.gifu-u.ac.jp/　（岐阜大学図書館からリンク） 岐阜大学地域資料・情報センター：http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/							

資料の主な貸出先・掲載など				
資料名など	貸出先など	展示会名・書籍名など	展示期間・刊行年月など	備考
可児郡野市場村絵図　など 8 点	可児市史編纂室	『可児市史　第 2 巻　通史編　古代・中世・近世』	2010 年 8 月	11 ～ 12 月、可児郷土歴史館でパネル展示
有君様御下向之節渡船場絵図　など 5 点	岐阜市歴史博物館	「特別展　長良川とともにあゆむ」	2010 年 9 月 10 日 ～ 10 月 11 日	図録にも掲載
中山道美濃国本巣郡美江寺宿之図　など 3 点	瑞穂市図書館	「企画展　降嫁 150 年　皇女和宮と中山道・美江寺宿」	2011 年 10 月 8 日～ 11 月 6 日	パネル展示
宗慶古墳調査図面　など 11 点	本巣市役所	真正文化祭での企画展示	2012 年 11 月 3 日・4 日	パネル展示、一部は本巣市広報 2012 年 9 月号に掲載
額田県管轄第八大区内第三小区三河国設楽郡上津具村絵図　1 点	愛知県史編さん室	『愛知県史研究　第 17 号』	2013 年 3 月	口絵に掲載
山県郡石原村絵図　など 9 点	岐阜市歴史博物館	「企画展　古地図にみる江戸時代の美濃」	2013 年 7 月 12 日 ～ 9 月 1 日	図録にも掲載
武儀郡小屋名村絵図　など 11 点	岐阜県博物館	「特別展　里山いま昔―人と自然あらたな“絆”を求めて―」	2014 年 9 月 12 日 ～ 11 月 16 日	図録にも掲載
和宮様御下向之節渡船場絵図　など 2 点	鏡島の歴史書刊行委員会	『鏡島の歴史』	2014 年 10 月	
『地域史料通信』第 6 号「年貢米を運ぶ―美濃国幕領の廻米輸送を中心に―」の記事	磐田市歴史文書館	「第 14 回磐田市歴史文書館　企画展　よみがえる遠州の小江戸～掛塚湊繁栄の軌跡～」	2015 年 1 月 13 日 ～ 2 月 27 日	パネル展示、配布資料に掲載

鰻が京へ運ばれた　―美濃・尾張国の鰻の流通・輸送の一端―

京都の鰻は○○産

鰻は、蒲焼きという料理法により江戸時代、大流行しました。その結果として鰻の消費量が増え、各地の鰻が京都・大坂・江戸に運ばれたといわれています。大坂川魚問屋を勤めた備前屋梶原久右衛門家の家文書から、幕末期の川魚流通について多くを知ることが出来ます。備中国産の川魚を大坂経由で京都へ輸送したいという一件があり、大坂町奉行が大坂川魚問屋に差支えの有無を尋ねました。その返答書の一部では次のようにあります。「一、元来川魚之内、鰻之義者、当表近辺ニ而取上ケ候品者極聊之義ニ而、多分西国筋并九州等より積登り候荷物ニ而渡世取続罷在、（中略）且京都之儀者、江州并尾濃遠等より持込候魚ニ而渡世仕、時宜ニ寄当地よりも売余り之魚ハ同所へ積登り売捌候儀も御座候（後略）」（大阪府立中之島図書館所蔵 大和銀文庫 9－6 大坂川魚問屋文書「仲間諸用留」万延元年（1860）12 月 14 日「乍恐口上」、中川すがね「川魚の消費と流通―大坂川魚問屋文書を中心に―」『甲子園大学紀要』39 号、2012 年）。19 世紀中頃、京都の鰻は、その多くが近江や尾張・美濃・遠江産で占められていたようです。

18 世紀後半、京都で本草学を講義した小野蘭山は、「ウナギハ（中略）京師ニテハ若州及江州勢多ノ産ヲ上トシ、城州宇治川、淀川、江州琵琶湖ノ産ヲ次トシ、勢州桑名、濃州ヨリ来ルモノヲ下品トス。（中略）桑名ヨリ来ルハ尾州蟹江ノ海中ニテ漁ス。濃州ヨリ来ルハ池沼ノ産ナリ」と述べています。（『本草綱目啓蒙（東洋文庫）』1・3、平凡社、1991 年）。京都で消費される鰻のうち、若狭・近江瀬田産を上等とする一方で、美濃産の鰻は「下品」と評されています。「下品」とされた濃州の鰻は、「池沼」の産であると述べられています。

少し時期はずれますが、明治 14 年（1881）作成の町村略誌（岐阜県歴史資料館所蔵）から、美濃国のうち海西・下石津・多芸郡について、湖沼での鰻漁が確認できた記事をまとめました（右頁表）。多芸郡有尾村（養老町）では、1 年間で凡そ 1,500 貫目（約 5,625kg）もの鰻が産出されたとあります。確かに、美濃南部の池で多くの鰻が捕れていました。年未詳の有尾村下池産の鯉・鮒・鰻等の売り捌き覚によると、9 月から 3 月の間で凡そ金 25 両位となり、販売先は「土地其外江州大津辺迄」と記されています（村上辨二氏所蔵文書、『養老町史 史料編 下』381 下池産物売捌覚、1974 年）。美濃国南部の池沼で漁獲された鰻は、美濃国内での消費にくわえて、大津やさらには京都といった大都市での流通・消費を支えていたと考えられます。

いつから鰻は運ばれた？

さて、尾張国や美濃国の鰻は、いつごろから京都へ運ばれるようになったのでしょうか。尾張・美濃国の地誌をひもといてみましょう。

もっとも早い事例は、「尾州蟹江」（愛知県海部郡蟹江町）の鰻です。これは、宝暦 2 年（1752）完成の『張州府志』にみえます（名古屋史談会編『愛知郷土資料叢書 19 張州府志（復刻版）』愛知県郷土資料刊行会、1974 年）。寛政年間成立とされる『濃州徇行記』（樋口好古著）には、美濃国石津郡五町村（海津市）で、「又夏は鰻を多くとり、（中略）此魚鳥は高須へ売出し京師へ多く送ると云」とあり

天保 5 年（1834）細見美濃国絵図（村絵図 178）
右頁の村が確認できる箇所を範囲とした。名物土産として「鰻」がみえる。

明治 14 年（1881）湖沼における鰻漁関係記事

	郡	村（現在）		沿　革	記載内容（湖沼など）	
1	海西郡	野寺村	海津市	元笠松郡代所支配地	村前池周廻 12 丁、幡長村ニ亘リ下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻泥ヲ採ル	
2		幡長村			宮池周廻 12 丁、野寺村ニ亘リ下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥シ料藻草ヲ採ル	
3		外浜村			宮西池周廻 4 町、森下村ニ亘リ下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻ノ草ヲ採ル	
4		古中島村			川田池周廻 5 丁、下流大江川ニ入ル、鮒・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	
5		松木村		元高須藩領地	蛇池周廻 748 間、蛇池村ニ亘リ下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	漁場：長良川筋及共有池ニ於テ雑漁業、漁船 1 艘、投細 1 張、漁人 3 人
6	下石津郡	高須堅磐町外 10 ヶ町			名産：鯉・鮒・鰻・鯰・鮒	
7		高須村			大池周回凡 4 町三葉村ニ亘リ下流中江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	
8		札野村			黒池周回 5 町下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／石ヶ瀬池周回 4 町下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／八幡池周回 4 町、下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／築留池周回 2 町、下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／荒川池周回 5 町、下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／馬池周回 3 町、下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／下池周回 4 町、下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	漁場：大江川・黒池・石ヶ瀬池・八幡池・築留池・荒川池・馬池・新池ニ於テ大網・壓網漁業漁船 5 艘、大網 1 張、壓網 4 張、漁人 15 人
9		稲山村		旧五町村・旧柳湊村ハ元名古屋藩領地、旧梶屋村・旧小島新田ハ元高須藩領地、明治 6 年 8 月合併	大堀池周廻 4 町 37 間、下流中江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル／大新田池周廻 6 町 46 間、下流中江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	
10		三ツ葉村		元高須藩領地、明治 6 年 8 月萱野村・西小嶋村・東小嶋村合併	大池周廻 4 町、高須村ニ亘リ下流中江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻艸ヲ採ル／東小嶋池周廻 4 丁、下流中江川ニ入ル、漁猟採藻同上／萱野池周廻 4 丁、漁猟採藻同上	
11		東駒野村		元高須藩領知	古海用池周廻 7 町、下流中江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻ヲ採ル／新海用池周廻 7 町、下流中江川ニ入ル、漁猟採藻同上	漁場：揖斐川筋又ハ古海用池・新海用池ニ於テ雑漁業、漁船 10 艘、大網 1 張、投網 5 張、漁人 15 人
12		安田村		元笠松郡代所支配地	村中池周廻 4 町、下流中江川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	
13		福江村		元名古屋藩石河太八郎知行所	赤池周回 5 町 55 間、下流大江川ニ入ル、鯉・鮒・鰻等ヲ漁シ、肥料藻艸ヲ採ル／中無垢里池周廻 14 町 33 間 3 尺、下流大江川ニ入ル、漁猟採藻同上	
14		田鶴村		旧太田新田ハ元笠松郡代所支配地、太田村ハ高須藩領地	字四間割池周廻凡 4 町 30 間、下流揖斐川エ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	漁場：揖斐川筋、堤内民有地字四間割池ニ於テ雑漁業、投網 2 張、漁船 4 艘、漁業人 7 人
15		徳田村		元大垣藩領地、明治 5 年 8 月元徳田村・元徳田新田ト合村	上ノ池周回 5 町、下流津屋川ニ入ル、鯉・鮒・鯰・鰻等ヲ漁シ、肥料藻草ヲ採ル	
16	多芸郡	志津村	養老町	元大垣藩領地	字下池周廻 1 里 16 町 52 間 3 尺、下流津屋川ニ入ル、漁猟・採藻草苅ノ便アリ	漁場：字下池ニ於テ網・魞・ウヘ・竹筒漁猟業、漁船 12 艘、魞 10 箇、ウヘ 2,000 箇、竹筒 1 万箇、無網 50 張、漁猟人 12 人
17		有尾村		元笠松郡代所支配地	下池周回凡 1 里 6 町、下流津屋川ニ入ル、漁猟・採藻ノ便アリ／前池周回凡 8 町 3 間、下流下池ニ入ル、漁採藻亦便ナリ	漁場：下池ニ於テ筌・竹筒・釣・魞等ノ漁業、筌 1,000 個、竹筒 2,000 本、釣 200 杯、魞 10 ヶ所、漁船 3 艘、漁猟人 10 人 物産：鯉 15 貫目・鮒 3,500 貫目、鰻 1,500 貫目、鯰 850 貫目、鮀 200 貫目、小鰕 35 石（全て 1 ヶ年算出凡） 名産：鯉・鮒・鰻・小鰕

（岐阜県歴史資料館所蔵　美濃国海西・下石津・多芸郡各町村略誌より作成、数値について算用数字で表記）

ます（平塚正雄編『濃州徇行記（復刻版）』大衆書房、1970年）。文政5年（1822）成立『尾張徇行記』（樋口好古著）には、尾張国愛知郡下之一色村（愛知県名古屋市）で「鰻鱺トリ貝ナトハ京師へ送リツカハスト也」とあります（名古屋市教育委員会編『名古屋叢書続編4 尾張徇行記（1）』1964年）。同村では、京都や江戸・近江等へ運ばれる鰻のため、文化9年（1812）年に鰻問屋ができ、運上金を上納していました（名古屋市西河家文書、『愛知県史資料編15 近世1 名古屋・熱田』187号、2014年）。

このように、18世紀半ばには尾張国蟹江村の、18世紀末には美濃国五町村の、19世紀初めには尾張国下之一色村の鰻が京都へ運ばれていたことが確認できました。鰻の蒲焼きは17世紀後半から18世紀前半に登場し、18世紀後半の大流行に至ると言われています（中川前掲論文）。都市における鰻の蒲焼きの大流行により、鰻の消費が増加し、それに伴い尾張・美濃国の村々の鰻が京都へ運ばれていったと考えられます。もっとも京都では、鰻の蒲焼きだけの店は無く、鯉の味噌汁や鮒の刺身など川魚中心の生洲と称した店で売られていました（喜田川守貞著、宇佐美英機校訂『近世風俗志（1）（守貞謾稿）』岩波書店、1996年）。

生きた鰻を運ぶ

表紙の古文書によると、尾張国産の鰻など生鮮物は美濃国根古地村（養老町）まで船で運び、そこから高田町（養老町）へ届け、高田から中山道柏原宿（滋賀県米原市）へ送られました。柏原宿からは大垣湊から運ばれてきた生鮮物も含め、柏原宿で雇われた人足によって近江国磯村（同上）へ運ばれ、磯村の漁船28艘で近江国大津（滋賀県大津市）まで運送しました（右頁・表紙図参照）。根古地村から柏原宿間には、鰻へ水の補給を行う荷物継会所がありました（西脇康「近世後期濃尾平野における陸運・水運と伊勢湾海運」『知多半島の歴史と現在』7号、1996年）。文政5年（1822）、彦根藩の船奉行が、磯村を含めた領内村々の船持に出した触書の一つに「磯村鰻舟之義ハ美濃路より出候魚鳥引請、定賃を以舟積上津可致候、尤登之節ハ古格之通大津生洲町着舟致シ（後略）」とあります（片山源五郎家文書、『新修彦根市史第7巻資料編近世二』457号、2004年）。「大津生洲町」は、船の荷揚場の大橋堀に接し、その堀の一角には生け簀が設けられていました（大津市歴史博物館編集・発行『歴史探検！大津百町ガイドブック』2015年）。鰻は死ぬと急速に鮮度が落ちますが、適宜水を補給すれば生きたまま運ぶことが可能でした。

荷主側は、鰻を生きたままいかに早く安く運ぶかを最重要としました。ところが、当時の荷物の輸送は宿場ごとに人馬を交替させ荷物を積み替える宿継ぎが基本でした。そのため、輸送時間と経費がかかりました。鰻を含めた生鮮品の輸送が増えるにつれ、人馬の交替・荷物の積み替えをしない輸送（附通・持通）や、抜け道（間道）の利用が盛んとなっていきます。宿場側では宿継ぎをしない輸送に口銭（手数料）を要求するようになり、紛争が繰り返されるようになります（西脇前掲論文）。

竹中家文書にみる鰻

現在整理中の美濃国池田郡八幡村竹中家文書には、表紙も含め3点の鰻の輸送に関わる紛争関係史料があります。八幡村で約50年間庄屋を勤めた竹中家9代目与惣治が、村内外の紛争の仲裁役を数多く果たしていたためです。

天保5年（1834）前後、尾張藩産物問屋（荷主）から、中山道垂井宿（垂井町）・今須宿（関ヶ原町）を管轄する大垣藩預所に対し、鰻などの生鮮物輸送をめぐって口銭徴収と宿継ぎを争点とする訴訟が起こりました。その終結のため仲裁役を勤めたのが、竹中与惣治のほか尾張国下之一色村服部半右衛門・美濃国横曽根村（大垣市）安田彦八の3人です。表紙の古文書は、天保7年（1836）8月、彼らが仲裁の経緯を大垣藩預所の役所と尾張藩の大代官役所へ提出した書類の控です。この古文書を含む3点の関係史料の翻刻は、『美濃国池田郡八幡村　竹中家文書目録（その1）』に収載しています。この鰻輸送をめぐる訴訟の詳細な分析は、今後の課題にしていきたいと思います。

表紙古文書（上段は史料翻刻、下段は読み方の一例）

乍恐口上書を以奉申上候

一尾州御国産鰻并生物類荷物、京都江従来
差送り来候処、右通行方ニ付濃州牧田・垂井・
関ヶ原・今須右四ヶ宿申合、荷主中与差揉候
一件ニ付、其御筋々より私共江立入取曖可申旨
被　仰付双方承糺候処、右四ヶ宿申口ニ者、九里半
宿々之儀者無給之問屋ニ而商人諸荷物之
助成を以御用相勤罷在候ニ付、先規より荷物

（中略）

奉申上候由ニ御座候、然処荷主中申口ニ者、魚鳥
貝類生物荷物京都送り之儀、濃州根古地
船付迄船ニ而差送り、夫より高田江相届、高田より
中山道柏原宿江差送り、大垣廻り之分茂右
宿ニ而落合、同宿雇人足を以江州磯村江
持通シ、同村漁船弐拾八艘ニ而大津迄運送
仕候段者、往古より仕来ニ御座候処、右道筋之内

（省略）

恐れながら口上書をもって申し上げ奉り候

一つ、尾州御国産鰻ならびに生物類荷物、京都
へ従来差し送り来り候処、右通行方につき濃州
牧田・垂井・関ヶ原・今須右四ヶ宿申し合わせ、
荷主中と差し揉め候一件につき、其の御筋々よ
り私ども へ立入り取り曖い申すべき旨仰せ付け
られ双方承り糺し候処、右四ヶ宿申し口には、
九里半宿々の儀は無給の問屋にて商人諸荷物の
助成をもって御用相勤め罷り在り候につき、先
規より荷物（中略）申し上げ奉り候由に御座
候、然る処荷主中申し口には、魚鳥貝類生物荷
物京都送りの儀、濃州根古地船付まで船にて差
し送り、それより高田へ相届け、高田より中山
道柏原宿へ差し送り、大垣廻りの分も右宿にて
落ち合い、同宿雇い人足をもって江州磯村へ持
ち通し、同村漁船弐拾八艘にて大津まで運送 仕
り候段は往古より仕来りに御座候処、右道筋の
内（省略）

鰻など生鮮物の道筋と中山道・九里半街道（推定）
※国土地理院発行 20 万分の 1 地勢図（岐阜・名古屋の一部分合成）を使用

交流コラム～現場から～

《名古屋大学附属図書館研究開発室から》

名古屋大学大学院文学研究科特任准教授　石川 寛

名古屋大学附属図書館には旧旗本交代寄合・西高木家に伝来した10万点近い古文書群が所蔵されており、その整理・調査・研究を附属図書館研究開発室が担っております。高木家文書は木曽三川流域における治水資料の宝庫として知られております。なによりも美濃地方における旗本領主制の様相を知りうる貴重な資料群でもあります。すでに5万2409点の整理を終えて『高木家文書目録』巻1～5を刊行しました。また、高木家文書デジタルライブラリーを公開し、ウェブ上から目録の検索と一部画像の閲覧が可能です(http://libst1.nul.nagoya-u.ac.jp/eco/index.html)。残る補遺文書についても現在整理に取り組んでおり、順次デジタルライブラリーに登録し公開することを考えております。

近年は木曽三川流域の自治体と連携しながら、当館以外に点在する高木家文書や高木家に関連する地域資料の調査・整理・活用にも取り組んでおります。福長氏旧蔵西高木家文書や関ケ原町歴史民俗資料館所蔵高木家文書、西高木家旧家臣の小寺家に伝来する小寺家文書などを整理し、目録の刊行とデジタルライブラリーへの登録を実現しました。また、昨年度には旗本西高木家陣屋跡が国の史跡に指定されたのを記念して、大垣市上石津郷土資料館と同時に展示会を開催しました。今後も当館所蔵の高木家文書の整理を進めるとともに、高木家文書を通じた地域の歴史文化遺産の調査・整理・保全についても積極的に連携・支援していきたいと考えております。

問い合わせ先：名古屋大学附属図書館研究開発室（中央図書館5階）
〒464-8601　名古屋市千種区不老町　Tel：(052)789-3697　Fax：同左

※「交流コラム～現場から～」では、岐阜県に関わる史料の編纂・保存・活用事業や、史料展示などの情報を掲載していきます。皆様からの情報をお待ちしています。

地域資料・情報センターの活動

センターでは、博物館収蔵の歴史資料の整理だけではなく、岐阜県内の行政情報をはじめ様々な資料を収集･整理し、大学内外の研究活動をサポートしています。現在は長良川河口堰の過去の裁判資料の整理と並行して、岐阜県に関する書籍の紹介・各所を巡ってトピックスの紹介などを行っています。活動の詳細はfacebook、ホームページをご参照ください。

編　集　後　記

本号では、名古屋大学附属図書館研究開発室、岐阜県歴史資料館、大阪府立中之島図書館の方々からご協力を賜りました。皆様、本当にありがとうございました。鰻に関する史料は奥が深く、今回だけでは調べきれませんでした。今後も、継続調査を考えております。10年目を迎え、新たな気持ちで資料整理に取り組んでいきたいと思います。（中尾喜代美）

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター　地域史料通信　第7号
発　行　日　2015年10月30日　　年1回刊行（予定）
編集・発行　岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター
〒501-1193　岐阜市柳戸1番1　Tel　(058)293-2312または3323　Fax　(058)293-3324
E-mail　archives@gifu-u.ac.jp　　URL　http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/